

第二百八十七話 卑劣なる赤化・洗脳教育

この時期(終戦記念日頃)になると、嫌でも思い出すことがある。それは、シベリア抑留者が受けた悲惨・人間性に対する冒瀆である赤化・洗脳教育のことである。

1 シベリア抑留と赤化洗脳教育

日ソ中立条約を破って対日参戦したソ連は、日本軍将兵等約 56 万人を約 2 0 0 0 個所の収容所へ移送・抑留し、うち約 6 万人が異国の地で没した。スターリンの抑留の目的は、戦争で失った自国労働者の代替としての労働力確保であり、抑留された日本人は、「飢餓、重労働、酷寒」という三重苦に直面したのである。

更には、唯一絶対のイデオロギーである共産主義は、必然的に他者への宣伝、教化、浸透を伴うものである。日本本土の占領を断念させられたスターリンは、抑留した日本人を日本革命の中核とすべく、赤化・洗脳教育を組織的に行ったのだ。

2 洗脳教育の実態(項目のみでは陰惨さが不十分ではあるが…)

抑留者に対する洗脳教育は、終戦翌年の秋頃から、ソ連共産党ラーゲリ政治部が統括し、2000 以上の支部が担当した。各種抑留記録等に見られる洗脳教育の実態(項目のみ)は以下の通りである。委細は関係抑留記を読んで貰いたい。

○「日本新聞」(タブロイド版の日本語新聞)の発行 (1945/9/15~1949/12/30)

発行部数公称 50~80 万部、662 号で廃刊、宣伝・扇動の中心、副題「新日本建設へ」

○政治教育集会への強制参加 ○踏み絵(天皇かスターリンか) ○レットル貼り

○ラーゲリ毎の「友の会」結成 ○アクチブによる密告・スパイの奨励、○反動分子指名・集団による吊し上げ ○自白の強要、チェキスト機関による拷問 ○階層別、思想別の分断工作 ○日本への収容所生活・共産党礼賛葉書の投函 ○ダモイ(帰国)と引き換えに思想転向強要 ○反動分子への食事量の削減やより過酷な重労働の賦課、一方協力的な者への厚遇(食事、居住、労働、ラーゲリ内の地位) ○スターリンへの感謝文署名運動(シベリア民主運動の総仕上げ) ○スパイの勧誘(早期帰国を餌に)等々

*自らを守るために積極的に吊し上げ等への参加、 *人間の弱みに付け込んだ卑劣・卑怯なる手段の駆使 *人間不信の助長、信頼感・絆の破壊等

3 洗脳・民主化運動への抵抗二態

(1) 筋を通した硬骨漢

妥協することなく筋を通した硬骨漢が居たのも事実

「沿海州に津森(藤吉中佐)あり、ハバロフスクに草地(貞吾大佐)あり」

(2) 「赤いカブ」(偽装共産主義者)(カブは、表面は赤いが中身は白)(大多数?)



4 赤い帰還者

- ・共産党への忠誠を誓った「誓約引揚者」の優遇帰国
- ・舞鶴港や各地の引揚特別列車の停車駅で赤い帰還者による騒擾事件頻発(高砂丸事件、京都事件、信洋丸事件等)、「引揚者の秩序保持に関する政令」(1949/8/11)公布後鎮静化

・対日スパイ(帰国後に日本の情報を通報する任務)の暗躍

日本社会にシベリアからの帰還者に対する偏見が蔓延、警察の監視対象ともなった。

赤い帰還者に対する「日の丸組」と称する反共・反ソの帰還者

*日本赤化の目論見は破綻したが、洗脳教育の残渣は日本社会に浸透

5 日本人の弱点露呈か

対日工作責任者コワレンコの日本人の弱点を知り尽くした権謀術策

日本人：集団主義、権威主義、勝者・強者への媚・阿諛、変わり身の早さ etc 独人捕虜：毅然・堂々としていたとの証言も 弱者よ、そは人間か、日本人か？

(了)